

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
41	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
411	教育理念・目的に基づき学位授与の方針を明示していますか。	①教育理念・目的に対し、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針は整合していますか。	A	A
412	教育理念・目的に基づき教育課程編成・実施の方針を明示していますか。		A	A
413	学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針は構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されていますか。	②明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。	B	B
		③学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針は構成員（教職員および学生）に対し、周知し十分理解されていますか。【※どのように】	B	
		④社会に対し、公表していますか。【※どのように】	A	
414	学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針の適切性について定期的に検証を行っていますか。	⑤学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針は検証しましたか。【※どのように】	B	B

2. 現状説明 《記述形式》

<p>対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。</p> <p>①「教育にかかる基本方針」に基づき「教育理念・目的」を定め、これらを踏まえた各学部・研究科の「学位授与の方針」を策定し明示している。策定にあたっては、6つの観点（領域）（「建学の精神」「知識・理解」「興味・関心」「技能・表現」「思考・判断」「態度」）を達成目標と向上目標に分類して定めている。なお、教養教育科目の「学生に保証する基本的な資質」については、各学部・研究科の「学位授与の方針」に包摂している。また、「教育課程編成・実施の方針」の策定にあたっては、「学位授与の方針」と同じ6つの観点（領域）別に分類して策定し整合性を図っている。</p> <p>②各学部・研究科に対して「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を修正した場合は、教務会議・大学院運営委員会に報告するように依頼し、明示媒体に齟齬が発覚した場合も、各学部・研究科に報告を求めて是正を図ったが、社会学部の履修要項に記載ミスがあり齟齬が発生した。</p> <p>③各学部・研究科の「教育理念・目的」や「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」については、履修要項や本学 HP に明示することで、教職員と学生が共有できるようにしており、教員には、主に教授会や研究科委員会を通じて周知し、学生に対しては、入学時のオリエンテーションや履修登録説明会において説明し周知している。しかし、2012年度実施（2013年度集計）の『『学位授与の方針』に関する達成度調査』の結果を見ると、知らないという学生が多く、「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」の関係が、カリキュラムや授業との関係において、どのような構造になっているのか、学生に十分明示（説明）できていない。</p> <p>④各学部・研究科の「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」は、主に大学ホームページや入試部が作成する「大学案内」に掲載し、社会に公表している。</p>
--

⑤「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」の検証は、毎年度実施する自己点検・評価を通じて、また、履修要項作成時やカリキュラム変更時に各学部・研究科が定期的に点検・検証を行っている。しかし、「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」の適切性については、2010年度に「カリキュラム・チェックリスト」を作成して検証しているが、一定時間が経過していることから、あらためて適切性や整合性を検証する必要がある。

[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

(自ら「改善すべき点」と掲げた事項)

- ・「『学位授与の方針』に関する達成度調査」から、学生への周知に関する問題が明らかになっている。教務会議で議論し、現状の問題を明確にした上で履修説明会のあり方やシラバスの工夫などの改善を講じる。
- ・学位の質保証の観点から、「3つの方針」に関わって、これまで各学部が取り組んできた自己点検・評価に基づき、「教育理念・目的」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」の整合性や適切性について改めて確認し、教務会議等を通じて全学的に改善を行う

(評価結果)

- ・教養教育センター設置にともなう教養教育の目的、DP・CPの変更を機に、6つの観点に基づく「学位授与の方針」の学生に保証する基本的な資質と「教育課程編成・実施の方針」の関係が、カリキュラムや個々の授業（シラバスを含む）との関係において、どのような構造になっているか、学生に明示（説明）し、周知する方策の検討を早急に進めていただきたい。【努力課題】
- ・方針の検証については、各学部や学舎教養教育科目会議等で個別に行うことに加え、全学的見地により整合性や適切性を確認し、改善すべき点があれば実行して頂きたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」の関係性や各授業との構造について、未だ学生に明示（説明）できていない。2013年度では、各学部等のそれらの方針について、どの程度の学生が認識しているのか、また、周知方法、現状の問題点について各学部を確認を求めた。今後、それらの結果をもとに教務会議等で検討し、学生への明示（説明）方法について全学的に改善を行う。
- ・「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」の検証については、カリキュラム・チェックリストなどを用いた適切性の検証について検討を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
411、412、413	龍谷大学学則第2条の2
411、412、413	龍谷大学大学院学則第3条の2
411、412、413	龍谷大学短期大学部学則第4条
411、412、413、414	履修要項
413	学生手帳（2014年度）P.8～P.10
413	出講手帳（2014年度）P.3～P.4
413	大学HP（ http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
413、414	2013年度第15回教務会議議事録

II. 評価結果

総評
<p>DP、CPについては、概ね適切に実行していると評価できるが、DP、CPにおける領域・観点等の区分に教養教育科目と専攻科目がどのように対応しているのかという点や、DP、CPの関係性については、依然として学生にはわかりにくいものとなっており改善されていない。また、変更について各学部・研究科に報告を求めて是正を図ったが、社会学部の履修要項に記載ミスがあり齟齬が発生するといった、きわめて初歩的な問題が生じている。現在、教養教育改革に伴って教養教育科目に関するDP、CPの見直しが図られていると思うが、その見直しはそのまま学部のDP、CPの内容変更に影響するため、現状で課題となっている点にも留意して、齟齬が生じないように注意していただきたい。</p> <p>また、「学位授与の方針」を知らないという学生が多いことは問題であり、明示の仕方や履修登録説明会のあり方なども含め、改善が求められる。その際、指標を定め、定量的にそれらを把握しつつ改善に努めることが望まれる。</p> <p>また、認証評価の分科会報告書で「アジア・アフリカ総合研究プログラム」における授業科目に不開講となっているものが多いと指摘を受けている。現状を把握の上、改善願いたい。</p>
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<ul style="list-style-type: none"> ・DP、CPにおける領域・観点等の区分に教養教育科目と専攻科目がどのように対応しているのかという点や、DP、CPの関係性については、依然として学生にはわかりにくいものとなっており改善されていない。【努力課題】 ・社会学部の履修要項に記載ミスがあり齟齬が発生するといった、きわめて初歩的な問題が生じている。現在、教養教育改革に伴って教養教育科目に関するDP、CPの見直しが図られていると思うが、その見直しはそのまま学部のDP、CPの内容変更に影響するため、現状で課題となっている点にも留意して、齟齬が生じないように注意していただきたい。【留意点】 ・「学位授与の方針」を知らないという学生が多いことは問題であり、明示の仕方や履修登録説明会のあり方なども含め、改善が求められる。その際、指標を定め、定量的にそれらを把握しつつ改善に努めることが望まれる。【留意点】 ・認証評価の分科会報告書で「アジア・アフリカ総合研究プログラム」における授業科目に不開講となっているものが多いと指摘を受けている。現状を把握の上、改善願いたい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
<p>【分科会報告書 課題】</p> <p>・研究科のプログラムには、「アジア・アフリカ総合研究プログラム」があるが、当該プログラムにおける授業科目については不開講となっているものが多い。</p>

IV. 全学的課題事項

2013年度	<p>■評価項目 No.413</p> <p>教養教育センター設置にともなう教養教育の目的、DP・CPの変更を機に、6つの観点に基づく「学位授与の方針」の学生に保証する基本的な資質と「教育課程編成・実施の方針」の関係が、カリキュラムや個々の授業（シラバスを含む）との関係において、どのような構造になっているか、学生に明示（説明）し、周知する方策の検討を早急に進めていただきたい。【努力課題】</p>
--------	---

2012年度	<p>■シート番号 413</p> <p>大学案内誌などの入試媒体において、教育理念・目的やDP・CPをどのように明示するのが相応しいのか（DP・CPは、必ずしもそのまま載せればよいというものではないと思われる）検討する必要がある。【努力課題】</p>
2011年度	<p>■シート番号 413</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等の目標・方針について、各種媒体で不整合が生じていないか検証し、履修要項にもとづき再編して、明示内容の整合を図ることが望まれる。【努力課題】</p> <p>（補足）教職員はもとより、最も重要な学生への周知内容・方法に齟齬があり、結果、ばらばらに認識されている可能性がある。これは「建学の精神」についても同様のことが言える。</p>